

2020.10.20

Report from AKATSUKA PARK

赤塚公園武蔵野台地崖線 植物モニタリング活動

保護活動するには観察も必要

大門地区のニリンソウ自生地は今では「都内最大のニリンソウ自生地」として知られるようになり、3～4月の開花期には都外からも来園者がある「観光スポット」になってきましたが、これはボランティア団体の「区の花ニリンソウを保存する会」のみなさんが40年近くにわたって保護活動をつつてきた賜物です。



ところが、この団体が9月末日をもって解散のやむなきに至りました。赤塚公園サービスセンターは、当公園の大門地区ニリンソウ自生地は武蔵野台地崖線の豊かなみどりを象徴するとても大切な場所であることから、保護活動を継続するために可能な限りの支援を行うこととしました。

10月から秋の手入れシーズンに入りましたが、10/18の活動日には旧保存する会のみなさんのほかに、大門地区の掲示をご覧になって駆けつ

けてくれた方やモニタリング活動の参加者のみなさんなど11名が集まってきてくれました。あいにくの長雨で濡れた林内作業は危険なために観察会に切り替えたのですが、みなさん熱心にメモを取っていらっしゃいました。

サービスセンターは、林の手入れ活動のテコ入れを行いながら、ボランティアによる運営協力を得て、出来るだけ早い機会に保護活動の再編を図っていくつもりです。

モニタリング活動でも必要に応じて手入れを行っています



オオブタクサ秋の花粉症の素とも言われていますが、背丈が3m以上に伸びるので、この植物が茂ると他の植物が育たなくなってしまいます。花が咲いて実がなる前に出来るだけ除伐しています。

保護エリアを示すロープ柵の壊れたところは補修しながらモニタリングを続けています。

そもそも観察・記録活動は生物多様性を保全するための活動のひとつですから、こうした作業は当たり前のこととして取り組んでいます。



続続続 実・実・実・実……オンパレード



前号 (20201014) の間違い訂正 → ノササゲの実はこちら ↓

←これはオニドコロの実でした
右の写真で
黒みを帯びた豆莢がノササゲで
球形の実はヤブミョウガ →



実ではないが ↓ ヤマノイモ (自然薯) のむかご



← シロダモ

ヤブマメの豆莢
(赤いのはミズヒキの実) →



モニタリング(植物観察・記録)活動 だれでも参加歓迎です!

11月の予定 11/2、11/9、11/16 いずれも 9:00 赤塚ため池公園梅林下出発

雨天中止 お問い合わせは赤塚公園サービスセンターまで ☎03-3938-5715